

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	15-045	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
<p>Youth Drinking in the United States: Relationships With Alcohol Policies and Adult Drinking.                  アメリカでのアルコール政策及び成年の飲酒習慣は未成年の飲酒習慣と関連を示す</p>		
<b>執筆者</b>		
Ziming Xuan, Jason G. Blanchette, Toben F. Nelson, Thien H. Nguyen, et al.		
<b>掲載誌</b>		
Pediatrics. 2015 Jul;136(1):18-27. doi: 10.1542/peds.2015-0537.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
アルコール政策、未成年の飲酒、集団ベースの政策		26034246
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b>                  アメリカでは 20 歳以下の若者が年間 4,300 人以上飲酒で亡くなり、飲酒は 10 代から 20 代の若者の主要な死因の危険因子である。アルコール政策は、若者の飲酒を減少させる重要な手段であるが、若者向けのアルコール政策と酒税のような集団ベースの政策ともに若者の飲酒は減少する。しかしながら、これまでにアルコール政策環境と未成年者の飲酒の関係について評価されておらず、積極的なアルコール政策は未成年の飲酒とは逆相関し、この関係は成年の飲酒についても成り立つかについて仮説を検証した。</p>		
<p><b>方法：</b>                  アルコール政策尺度(APS)は各州でのアルコール政策環境をスコア化し、1999 年から 2011 年間の隔年の Young Risk Behavior Survey データの 9 学年から 12 学年の高校生のデータを用いて繰り返し横断解析を行った。</p>		
<p><b>結果：</b>                  調整後のモデルで、APS スコアが 10 パーセント上昇すると、未成年の飲酒は 8 パーセント減少し、未成年の大量飲酒は 7 パーセント減少した。集団ベースの政策のサブグループに分けて解析しても、未成年の飲酒と大量飲酒と逆相関の関係が得られた。</p>		
<p><b>結論：</b>                  アルコール政策環境とアメリカの高校生での飲酒量の間を評価した最初の研究であり、積極的な集団ベースの政策は、未成年に限定しないものを含めて、未成年の飲酒と大量飲酒を減少させることに関連していた。未成年の飲酒を減らすために、アルコールの害を防ぐ総合的取り組みとして成年の過剰飲酒を減らすための集団ベースの政策を取り入れていくべきである。</p>		